

# 30P-pm165Q

キノコとユズ抽出物のアレルギー抑制効果の検討

○市瀬 孝道<sup>1</sup>, 吉田 成一<sup>1</sup>, 定金 香里<sup>1</sup>, 原田 名美子<sup>1</sup>, 石川 雄一<sup>2</sup>(<sup>1</sup>大分県立看護科学大,<sup>2</sup>大分大)

【目的】近年アレルギー緩和作用をもつ食品の開発が注目されており、現在、ヨーグルト(乳酸菌)やべにふうき茶、また、幾つかの柑橘類にアレルギー症状を緩和する作用があることが報告されている。そこで本研究では2種類のキノコ(冬虫夏草と白キクラゲ)と大分県産のユズ果皮抽出物について、抗アレルギー作用を、卵白アルブミン誘発によるマウス喘息モデルを用いて検討したので報告する。

【方法】本実験にはICR雄性マウスを用いた。実験群は対照(生理食塩水)群、卵白アルブミン(OVA)単独投与群、OVA+冬虫夏草群、OVA+白キクラゲ群、OVA+ユズ果皮群とした。OVA処置群には初期感作として実験開始日にOVAの1mgと水酸化アルミニウムゲル(ALUM) 1.5mgを腹腔内投与した。その20日後からネブライザーを用いて、1%OVAを1日おきに2回、その後2%OVAを1日おきに2回の計4回暴露した。その一方で、2種類のキノコと果皮抽出物の0.5mg、2mg、8mgをOVA暴露前に3回、暴露期間中に3回、計6回経口投与した。なお、対照群とOVA単独暴露群には抽出物の代わりに蒸留水を経口投与した。OVA最終投与の翌日に屠殺し、気管支肺胞洗浄液(BALF)の炎症細胞数や炎症性サイトカインのIL-5とIL-13の測定、血清中の抗原特異的-IgE抗体測定と肺の病理学的検索を行った。

【結果及び考察】冬虫夏草、白キクラゲ、ユズ果皮投与群のBALF中の好酸球数はOVA群と比較して著しく減少し、また好酸球の遊走・活性化に関与するIL-5やTh2サイトカインのIL-13も著しく減少していた。更に、OVA特異的-IgE抗体産生にも抑制効果が認められた。また、これらの投与は気道周囲への好酸球浸潤や気道上皮の粘液細胞化等の喘息様の病態を軽減した。以上の結果から、キノコやユズ果皮抽出物にはアレルギー反応を抑制する効果があるものと示唆された。